



2023年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年1月13日

上場会社名 株式会社イオンファンタジー 上場取引所 東
 コード番号 4343 URL <https://www.fantasy.co.jp/>
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 藤原 徳也
 問合せ先責任者(役職名) 取締役兼常務執行役員 管理統括 (氏名) 井関 義徳 (TEL) 043 (212) 6203
 兼リスクマネジメント担当
 四半期報告書提出予定日 2023年1月16日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年2月期第3四半期の連結業績(2022年3月1日~2022年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年2月期第3四半期	52,778	23.8	△134	—	354	—	△2,232	—
2022年2月期第3四半期	42,625	41.0	△3,930	—	△4,013	—	△4,687	—

(注) 包括利益 2023年2月期第3四半期 △2,301百万円(—%) 2022年2月期第3四半期 △4,669百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年2月期第3四半期	△112.95	—
2022年2月期第3四半期	△237.17	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年2月期第3四半期	49,917	9,342	18.3
2022年2月期	51,235	11,841	22.8

(参考) 自己資本 2023年2月期第3四半期 9,147百万円 2022年2月期 11,692百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年2月期	—	15.00	—	5.00	20.00
2023年2月期	—	5.00	—	—	—
2023年2月期(予想)	—	—	—	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 2023年2月期の連結業績予想(2022年3月1日~2023年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	73,200	21.7	300	—	350	—	△3,400	—	△172.00	

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正については、本日(2023年1月13日)公表いたしました「業績予想の修正及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は添付資料9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年2月期3Q	19,768,825株	2022年2月期	19,768,825株
② 期末自己株式数	2023年2月期3Q	1,919株	2022年2月期	1,743株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年2月期3Q	19,766,980株	2022年2月期3Q	19,763,880株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	9
(会計方針の変更)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報)	10
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社は2022年4月に、「こどもたちの夢中を育み、“えがお”あふれる世界をつくる。」というパーパスを策定いたしました。同時に、サステナビリティ方針も策定し、持続可能な社会への貢献と企業価値向上の実現に向け、事業活動を推進しております。

当第3四半期連結累計期間(2022年3月1日～2022年11月30日)における当社及び連結子会社の連結業績は、売上高が527億78百万円(前年同期比23.8%増)となりました。営業損失は1億34百万円(前年同期営業損失39億30百万円)、経常利益は3億54百万円(前年同期経常損失40億13百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は22億32百万円(前年同期親会社株主に帰属する四半期純損失46億87百万円)となりました。営業利益は前年同期より大幅に改善し、国内事業では33億5百万円、アセアン事業では15億91百万円の改善額となりました。また、各国為替レートが円安に進み、為替差益を営業外収益に8億9百万円計上し、営業活動の一時休業に伴う特別損失を10億83百万円計上しております。

国内事業とアセアン事業は当第3四半期連結会計期間を通じて好調に推移いたしました。国内事業は重点的に取り組みを進めているプライズ部門とカプセルトイ部門、業界シェアの高いカード部門が堅調な売上となりました。アセアン事業は過去最高益を更新し、特にマレーシアとフィリピン、ベトナムが好調を維持しております。中国事業はゼロコロナ政策による行動規制が9月からさらに強まり、厳しい経営環境が続いております。

10月1日には世界8カ国で1,000店舗を達成いたしました。1,000店舗を記念し、全ての国でプレイングラウンドの無料招待会やイベントを実施し、多くのお客さまにお楽しみいただきました。

店舗数については、当第3四半期連結累計期間での新規出店111店舗、閉店27店舗となり、2022年11月末時点で国内590店舗、海外434店舗、合計1,024店舗(直営店1,015店舗、F C等9店舗)となりました。

(国内事業)

国内事業は夏休み期間において全国的に新型コロナウイルスの感染者が大幅に増加し影響を受けましたが、8月後半より徐々に回復基調となり、9月以降は2019年度水準まで回復いたしました。その結果、当第3四半期連結会計期間の営業利益は1億88百万円となり、前第4四半期連結会計期間から4四半期連続で黒字を確保しました。

戦略的に出店を加速させているカプセルトイ専門店「TOYS SPOT PALO」は、当第3四半期連結会計期間において新規に30店舗出店し、累計店舗数は139店舗となりました。同期間におけるカプセルトイ部門の売上高前年同期比は150.0%(2019年同期比493.5%)となり拡大を続けております。プライズ専門店「PRIZE SPOT PALO」は、当第3四半期連結会計期間において新規に11店舗出店し、累計店舗数は22店舗となりました。プライズ部門の中でも戦略的に拡大しているキッズのカテゴリーが好調に推移し、キッズプライズの当第3四半期連結会計期間の売上高既存店前年同期比は118.4%(2019年同期比130.6%)となり、男性アーティストグループ「NCT127」に代表される当社限定景品などがヒットした結果、プライズ部門全体の当第3四半期連結会計期間の売上高既存店前年同期比は113.1%(2019年同期比108.5%)となりました。

11月には「世界で1,000店舗達成記念イベント」を月間通じて実施いたしました。「モーリーファンタジーDX」会員限定企画やメダル増量キャンペーンを強化したことで、11月の新規入会者数は平月の3倍以上と大きく伸長し、コロナ禍で回復が遅れていたメダル部門や時間制部門の活性化に繋がりました。11月20日(日)の「世界こどもの日」にはスキッズガーデンなどの時間制遊具施設210カ所を無料開放し、多くのお子さまに“えがお”でお楽しみいただきました。

当第3四半期連結累計期間は、モーリーファンタジーを9店舗出店、カプセルトイ専門店とプライズ専門店を計80店舗、温浴事業OYUGIWA 1店舗を新規出店する一方、不採算店舗等14店舗(直営店13店舗、F C等1店舗)を閉店し、2022年11月末で590店舗となりました。

以上の結果、国内事業における当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高426億96百万円（前年同期比18.6%増）、営業利益9億96百万円（前年同期営業損失23億8百万円）となりました。

（中国事業）

中国事業はゼロコロナ政策によるロックダウン規制や厳しい行動規制が継続したことで、9月以降、休業店舗数が増加し客数が大きく減少いたしました。当第3四半期連結会計期間の売上高既存店2019年同期比は47.7%と大変厳しい状況の中、家賃減免交渉や投資の抑制、人員配置の見直し等によるコスト削減に努めました。

当第3四半期連結累計期間においては、直営3店舗、FC1店舗を新規出店する一方、不採算店舗等8店舗を閉店し、2022年11月末の店舗数はFC6店舗を含め195店舗となりました。

以上の結果、中国事業における当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高37億17百万円（前年同期比35.3%減）、営業損失20億27百万円（前年同期営業損失9億26百万円）となりました。

（アセアン事業）

アセアン事業では、当第3四半期連結会計期間の営業利益は2億12百万円となり、過去の同連結四半期会計期間比較での営業利益の過去最高益が前第4四半期連結会計期間から4四半期連続となりました。

特に好調なマレーシアでは当第3四半期連結会計期間の売上高は10億4百万円（売上高既存店2019年同期比129.4%）と好調で、営業利益は1億57百万円となりました。コロナ禍においてもwithコロナに向けた投資を継続し、新規の取り組みや競合との差別化を行ったことが売上に繋がりました。フィリピンでは当第3四半期連結会計期間売上高5億94百万円（売上高既存店2019年同期比119.0%）、ベトナムでは当第3四半期連結会計期間売上高2億3百万円（売上高既存店2019年同期比124.7%）と好調が続いております。

世界で1,000店舗を記念し、アセアン各国でもプレイグラウンドへの無料招待会を実施し、約6,000人のお子さまに“えがお”でお楽しみいただきました。

当第3四半期連結累計期間は、17店舗を新規出店する一方、不採算店舗4店舗を閉店し、2022年11月末の店舗数はFC3店舗を含め239店舗となりました。

以上の結果、アセアン事業における当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高63億65百万円（前年同期比576.5%増）、営業利益8億97百万円（前年同期営業損失6億94百万円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第3四半期連結会計期間末における流動資産の残高は、115億89百万円となり、前連結会計年度末に比べ6億69百万円増加いたしました。主な内訳は、売上預け金の増加（8億1百万円）であります。

当第3四半期連結会計期間末における固定資産の残高は、383億28百万円となり、前連結会計年度末に比べ19億87百万円減少いたしました。主な内訳は、減価償却が設備投資を上回ったことによる遊戯機械の減少（17億31百万円）であります。

この結果、総資産は499億17百万円となり、前連結会計年度末に比べ13億17百万円減少いたしました。

（負債）

当第3四半期連結会計期間末における流動負債の残高は、338億55百万円となり、前連結会計年度末に比べ23億46百万円増加いたしました。主な内訳は、短期借入金の増加（7億6百万円）、未払費用（主に未払賃借料）の増加（6億78百万円）、買掛金の増加（5億60百万円）であります。

当第3四半期連結会計期間末における固定負債の残高は、67億19百万円となり、前連結会計年度末に比べ11億64百万円減少いたしました。主な内訳は、連結子会社における長期借入金の減少（8億21百万円）、長期割賦未払金の減少（4億24百万円）であります。

この結果、負債合計は405億75百万円となり、前連結会計年度末に比べ11億81百万円増加いたしました。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は、93億42百万円となり、前連結会計年度末に比べ24億99百万円減少いたしました。主な内訳は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上（22億32百万円）であります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年2月期通期の連結業績予想については、2022年4月8日に公表いたしました連結業績予想から変更しております。

詳細については、本日（2023年1月13日）公表いたしました「業績予想の修正及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,008,031	5,947,358
売掛金	232,656	263,651
売上預け金	303,081	1,104,822
棚卸資産	2,207,960	2,521,169
その他	2,168,124	1,752,435
流動資産合計	10,919,854	11,589,437
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	5,316,819	5,278,633
遊戯機械（純額）	18,708,947	16,977,283
使用権資産（純額）	3,796,074	3,683,745
その他（純額）	2,405,244	2,250,610
有形固定資産合計	30,227,085	28,190,273
無形固定資産		
のれん	146,866	139,815
ソフトウェア	1,326,946	1,379,585
その他	4,159	4,793
無形固定資産合計	1,477,972	1,524,194
投資その他の資産		
敷金及び差入保証金	4,374,139	4,586,882
その他	4,236,443	4,026,762
投資その他の資産合計	8,610,583	8,613,644
固定資産合計	40,315,641	38,328,112
資産合計	51,235,496	49,917,549

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年11月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,261,480	1,821,640
短期借入金	20,201,040	20,907,706
1年内返済予定の長期借入金	2,037,420	1,621,993
1年内返済予定の長期割賦未払金	559,719	564,666
リース債務	1,746,936	1,899,340
未払費用	1,441,349	2,120,237
未払法人税等	310,981	653,493
賞与引当金	263,721	594,661
役員業績報酬引当金	10,920	30,712
閉店損失引当金	24,121	43,962
設備関係支払手形	682,294	974,617
その他	2,969,412	2,622,847
流動負債合計	31,509,396	33,855,878
固定負債		
長期借入金	1,779,408	958,009
長期割賦未払金	2,207,469	1,783,349
リース債務	2,501,834	2,600,004
退職給付に係る負債	199,989	181,507
資産除去債務	928,810	984,746
その他	266,815	211,789
固定負債合計	7,884,328	6,719,407
負債合計	39,393,725	40,575,285
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,806,987	1,806,987
資本剰余金	4,825,630	4,825,630
利益剰余金	5,477,154	3,046,863
自己株式	△3,704	△4,176
株主資本合計	12,106,068	9,675,305
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△364,491	△492,225
退職給付に係る調整累計額	△49,145	△35,756
その他の包括利益累計額合計	△413,636	△527,982
新株予約権	31,437	31,437
非支配株主持分	117,901	163,503
純資産合計	11,841,771	9,342,264
負債純資産合計	51,235,496	49,917,549

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年3月1日 至2021年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年3月1日 至2022年11月30日)
売上高	42,625,447	52,778,388
売上原価	42,744,241	48,422,142
売上総利益又は売上総損失(△)	△118,793	4,356,245
販売費及び一般管理費	3,811,621	4,490,652
営業損失(△)	△3,930,415	△134,406
営業外収益		
受取利息	54,820	53,969
為替差益	289,132	809,593
受取保険金	16,275	28,042
固定資産売却益	438	203
預り金受入益	17,498	6,138
リース解約益	45,429	21,888
増値税還付金	—	27,941
その他	37,626	30,718
営業外収益合計	461,220	978,495
営業外費用		
支払利息	496,743	446,369
固定資産売却損	19,225	14,030
その他	27,906	29,269
営業外費用合計	543,874	489,670
経常利益又は経常損失(△)	△4,013,068	354,419
特別利益		
雇用調整助成金	185,984	33,476
協力金収入	343,652	—
特別利益合計	529,637	33,476
特別損失		
閉店損失引当金繰入額	29,113	40,036
減損損失	176,774	601,321
店舗閉鎖損失	33,838	12,193
店舗休止損失	1,493,756	1,083,264
災害による損失	—	15,039
特別損失合計	1,733,482	1,751,854
税金等調整前四半期純損失(△)	△5,216,914	△1,363,958
法人税、住民税及び事業税	165,981	570,999
法人税等調整額	△615,101	252,252
法人税等合計	△449,120	823,251
四半期純損失(△)	△4,767,793	△2,187,210
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△80,344	45,410
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△4,687,448	△2,232,620

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年11月30日)
四半期純損失(△)	△4,767,793	△2,187,210
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	82,378	△127,542
退職給付に係る調整額	15,635	13,388
その他の包括利益合計	98,014	△114,154
四半期包括利益	△4,669,779	△2,301,365
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△4,600,482	△2,346,966
非支配株主に係る四半期包括利益	△69,297	45,601

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業的前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財またはサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財またはサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

これにより、海外子会社等に対する遊戯機械等の代理調達に係る収益について、従来は顧客から受け取る対価の総額で収益を認識しておりましたが、顧客への財又はサービスの提供における役割(本人又は代理人)を判断した結果、顧客から受け取る額から仕入先に支払う額を控除した純額で収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しておりますが、当該期首残高に与える影響はありません。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高及び売上原価に与える影響は軽微であり、営業損失、経常利益及び税金等調整前四半期純損失への影響はありません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(重要な会計上の見積り：固定資産の減損)

当第3四半期連結累計期間において、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した「重要な会計上の見積り：固定資産の減損」について、以下のとおり仮定の一部を変更しております。

将来キャッシュ・フローの見積りにおいて、中国の店舗については、新型コロナウイルス感染症の影響による政府規制を考慮し、売上高の回復時期について見直しを行っており、売上高が新型コロナウイルス感染症拡大前の水準に回復する仮定については、2024年2月期連結会計年度の上期中に回復するとの仮定に変更しております。また、国内とアセアンの店舗については、将来キャッシュ・フローの見積りにおける仮定の変更はございません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額(注)
	国内	中国	アセアン	計		
売上高						
外部顧客への売上高	35,938,133	5,746,283	941,030	42,625,447	—	42,625,447
セグメント間の内部売上高 又は振替高	62,699	—	—	62,699	△62,699	—
計	36,000,833	5,746,283	941,030	42,688,147	△62,699	42,625,447
セグメント損失(△)	△2,308,932	△926,097	△694,512	△3,929,541	△873	△3,930,415

(注) 調整額は、セグメント間取引消去等によるものであります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間に、「国内」セグメント3,774千円、「中国」セグメント113,514千円、「アセアン」セグメント59,485千円の減損損失を計上しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年3月1日 至 2022年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額(注)
	国内	中国	アセアン	計		
売上高						
外部顧客への売上高	42,694,930	3,717,471	6,365,985	52,778,388	—	52,778,388
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,841	—	—	1,841	△1,841	—
計	42,696,772	3,717,471	6,365,985	52,780,229	△1,841	52,778,388
セグメント利益又は損失(△)	996,250	△2,027,755	897,260	△134,244	△161	△134,406

(注) 調整額は、セグメント間取引消去等によるものであります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間に、「国内」セグメント16,684千円、「中国」セグメント545,477千円、「アセアン」セグメント39,159千円の減損損失を計上しております。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(会計方針の変更)に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの売上高の算定方法を同様に變更しております。

なお、当該変更による各事業セグメントの売上高に与える影響は軽微であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。